



寒い中、ブロッコリーの最後の収穫に勤しむ今井さんら



京丹後市

KYOTANGO CITY AGRICULTURE COMMITTEE

編集:京丹後市農業委員会
発行:京丹後市農業委員会事務局
京丹後市大宮町口大野226
電話 0772-69-0040

No.19

平成23年2月

農業委員会だより

こだわりの
農一筋に日々はげむ
人の喜び
心の糧に

目次

2~3P 「農を語る」 城下佳郎さんご家族(網野町)
今井幹夫さんご家族(大宮町)

4P ぼいすー声ー 大場耕作委員(久美浜町)

5P 農業委員会の活動報告

6P 建議書を提出しました

7P 京丹後アグリ瓦版
美人母娘の酒造り 永雄酒造(丹後町)
鱒留区足占会のしめ縄作り(峰山町)

8P 京丹後紀行 石工 長谷川松助 一峰山町鱒留ー
お米推進レシピ「米粉のお好み焼き」

国営三坂団地にぎゅっしり並んだキャベツ・レタス・ブロッコリー。



親子3代で28haを耕作しています
左から和彦さん・國彦さん・佳郎さん

佳郎さん

28haの経営をしています

私が就農したのは昭和47年で、当時の丹後は、機屋(はたや)さん(織物業)

【網野町島津】

城下 國彦さん(84)

城下 佳郎さん(61)

城下 和彦さん(32)

が「ガチヤ万」と呼ばれた最盛期でした。

「國彦さんとこの息子は、何でも大学まで出してもらって百姓するんだろ?」

なんて言われまして。私自身は、小さい頃から親の背中をみて育ち、後を継ぐんだと思い、大学は農学部を選びました。就農してから、農業をとりまく状況を常に意識し、機械化を進めるとともに耕作面積を逐次拡大してきました。

現在、親子三代で、経営面積は28haです。農機具の保有状況は、田植え機2台、トラクタ14台、乾燥機3台、コンバイン

3台、コンバイン

農を語る

親子三代
一つになつて

幹夫さん

野菜は嗜好品ではないんです

【大宮町大野】

今井 喜典さん(82)

今井 きみ江さん(78)

今井 幹夫さん(57)

今井 由美子さん(57)

今井 真也さん(27)

親子3代で農業をはじめ、4年目を迎える今井さんのご家族。一人ひとりがこだわりをもって農業されています。そんな今井さん家族にお話を伺いました。



うちで収穫した野菜は、直販しています

真也さん 幹夫さん
由美子さん 喜典さん

野菜は安心して、毎日当たり前に食べられるものでなければいけません。これには、私たちは農家の努力と、消費者の方たちとの情報の共有が大切です。野菜の普及を考え、たとき、農家はどうあるべきか、農家の利益や栽培が自己満足なものでないか、常に意識しています。

ン5台、籾摺機1台、パワーシヨベル1台、それに色彩選別機も所有しています。

これだけ機械があると、メンテナンスが大変ですが、私は息子と2人で整備するなど、経費の削減に努めています。特に息子は機械に強いですし、部品用に使う中古車から部品取りしてメンテナンスしています。



大きな機械も、丁寧にメンテナンスしています

TPP(環太平洋連携協定)について

反対ですね。財界などは、大きな経済効果を期待しているようですが、効果を期待しているのは他国も同じで、そんなに大きな利益が出るとは思えません。

結局、「日本の農業が消えただけ」という結果になるような気がします。

政府は、農家には戸別の所得補償で支援するつもりかもしれませんが、期待したほどの経済効果が得られなかったとしたら、借金を増やしただけということになります。今後の推移をしっかりと見守っていききたいですね。

農協や農業委員会が建議や要請運動をして大きな声で反対しないといけないと思います。農業委員会は、建議で政策の場にも申すことが出来るので、是非お願いします。

和彦さん

今後の経営について

今後の経営については、TPP、異常気象、鳥獣害など大きな問題が山積みで、先が読めないというのが正直な気持ちです。

「米は3食毎日食べる」というのは、父親(おやじ)ぐらいの年代の方までだと思っんです。

米の需要自体が変化していく中で、消費者の方がどう考えて米を食べるのか、米を消費していくのか考えないといけないですね。

今までもやってきたことですが、一投下資本や労力を出来るだけ少なくして合理化を図る「そして『良いもの』を作る。これは代々受け継いできた考え方ですし、私もしっかり受け継いでいこうと思っています。」

うちのレタス、こだわっています

収穫最盛期には、大宮町が一望できる三坂団地一面に、ブロッコリー、キヤベツ、レタスなど緑の野菜がぎっしり並びます。

特にレタスへの思い入れは強く、丹後の気候でどうすればレタスが出来るのか、技術については長野県や兵庫県などの他産地にも足を運びました。また多くのデータを収集し、今も試行錯誤しながら栽培しています。

真也さん

農家にも説明責任が必要です

私は、コンピューター関連の仕事に就くことを考えていましたが、家族の「農」に対する熱意に惹かれて一念発起し、農業への道に進もうと決意しました。農学校卒業後は他県で経験を積んで4年前に京丹後へ戻り、家族とともに農業をしています。

私は、農家にも情報公開や説明責任が必要だと考えています。そのために、情報発信にも力を入れ、自分たちで製作したホームページ「うさぎ屋」は苦勞した甲斐あって満足のいくホームページになりました。

喜典さん

おじいちゃんの鯉農法

私は、「鯉農法」で米の栽培をしています。若い頃から鯉が趣味で、趣味が高じて、約20品種の鯉を飼育し、品評会にも出展しています。その大切な鯉を使って無農薬で栽培しています。

鯉を使う田は5反あまりで、卵から稚魚まで使用し、稚魚なら通常1反2000匹〜3000匹使用します。鯉を元気に泳がせるためには、田んぼの水温管理や鳥などからの保護が大切で、細心の注意を払っています。愛着のある鯉に手伝ってもらう自然農法の甲斐あって、平成21年からはブランド化しています。

「家族みんなが知恵と力を出し合って、協力して農業しています。」という幹夫さん。

そんな今井家の様子を、幹夫さんの母きみ江さんが歌にされました。

こだわりの

農一筋に日々はげむ

人の喜び

心の糧に

ぼいす

昨年の7月より農業委員を務めています。

どうして私が農業委員を務めるようになったかというと、きつと「大場耕作」という名前がそうさせたのだと思います。

私の祖父の名前は、大場種治郎です。郵便局に勤めながら農業をしていました。父は、大場穂吉郎です。農業一筋でした。私が大場耕作です。3年前に退職し、今は名実ともに「大場耕作」しています。息子は、大場良作と言います。ラリーマンです。農繁期は一緒に農業をします。孫が2人います。長男は、大場大地といひます。4月に小学校2年生になります。次男は、大場日向です。4月から保育園の年長組になります。

名前を祖父から繋いで解説しますと、おじいさんが「種」をまき、種の後に「穂」が出、それを「耕作」し収穫したら「良作」でした。ということになります。農業から考えると、収穫が「良作」で完成ですが、男の孫ができました。名前が公募になり、私が「大地」という名を提案

大場耕作 委員



しました。

家族会議の結果、見事採用されましたが、「だいち」ではなく「たいち」と読むことになりました。次にまた男の孫が生まれました。また勇んで、提案しました。「大地」から大きな木が育つことを願い、「一樹」と提案しましたが、「一」は長男につける字であり、次男には適当でないということで却下されました。孫の母親が、「日向(ひなた)」を提案し、それが採用されました。

私が孫の名前に「大地」を提案したことについては、賢明な皆様のことです。先刻ご承知のことと思います。私の責任範囲を超えることではあります。息子「良作」まで延々と続いている農業にこだわった名前を引き継いでほしかったのです。

次男の名前については、私の提案が採用されませんでしたので、どうなることかと心配しましたが、孫の母親が

大場家のこだわりをよく理解してくれ「日向」を考えてくれました。大きな声では言えませんが、感謝しています。もし、また男の孫が生まれたら、その名前はこうしたら良いのでしょうか。「大地」に暖かな「日向」が当たれば、もう「種」を蒔かずにはおれません。また、最初の祖父「種治郎」に帰るのです。農業も循環型、名前だって循環です。

退職後農業していいなあと思うのは、全てが自分の意思で決定でき、自分の思うように実践できることです。いつでも疲れたら畦に座って休み、ゆっくりと周りを眺めています。農繁期には、息子が孫をトラクターに乗せています。それを眺めている



おじいちゃんのカメラには、温かい景色が写ります

私がおり、写真を撮っている父(92歳)がいます。こんな時にはささやかな幸せを感じます。

これからも、名前にこだわっているように家族の絆を大切に、先祖から引き継いだ田畑を守り、小さな幸せを見つけないが前向きに生きていきたいと思っています。

全国農業新聞を購読してみませんか？

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門紙です。「週刊」ということから日々の報道には限界がありますが、むしろ週刊の時間を生かし、大切な情報をわかりやすくまとめています。また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。



週間 金曜日発行 月600円、年7,200円 (消費税込み)

平成22年度 京丹後市農業委員会視察研修

視察研修を行いました。平成22年11月11日・12日の二日にわたり、三重県伊賀市「伊賀の里モクモク手作りファーム」、愛知県豊田市「はっぴー農産」の二つの農業法人を視察しました。「モクモク手作りファーム」についてはいわゆる6次産業の成功例として全国的にも有名です。社長の木村修氏に、地域農業発展を目指した創業時の苦労、発展の転換点となったハムの手作り体験教室発足の経緯、事業拡大に伴う問題の発生とその解決な

どについて話をいただきました。「この会社は、個人の物でなく地域の財産として残していきたい」と語られたのが印象的でした。



熱心に研修を受ける委員



はっぴー農産は平成10年に設立し、数名の従業員とともに家族中心で経営されています。経営内容は、水稻40ha・麦20ha、ライスセンター業務6000俵、作業受託20haなどを手がけられ、生産物のほとんどを個人販売されています。専務(奥さん)が地域の交流に熱心で、「私たちは、地域の要請を受けてのライスセンターであり、地域から必要とされる会社でありたい。」と話されました。

二つの法人は、規模経営形態などずいぶん違っていますが、地域との連携と信頼が経営の基礎という点では共通しており、丹後農業の今後のあり方について考えさせられる事例でした。(藤本和久委員)

農地利用状況調査の実施状況について

京丹後市では、農地法の改正により農地の利用状況に関する調査を行っています。農業委員会では、地区担当の委員が市内の全農地について1筆毎の調査を行い、農地の現況にあわせて助言・指導を行ってまいります。

優良農地を確保して、継続して耕作していくためには、耕作者はもとより集落組織や行政が一丸となって取り組むことが大切です。

市民の皆様のご協力をよろしくお願いします。



弥栄町の農地の利用状況について協議する委員
(左から入江委員、坪倉委員、吉岡委員)

こんな人が
加入できます。



農業経営者



農地の権利名義を持たない配業者



農地の権利名義を持たない後継者



農業従事者



畜産農業者



施設園芸等農業者など

魅力いっぱい。 農業者年金。

お問い合わせは、JA(京都農業協同組合)京丹後市内各支店 または、
京丹後市農業委員会事務局 電話69-0040まで

平成23年度 京丹後市農業施策に 関する建議書を提出しました

昨年12月14日、農業委員会では、平成23年度の農業施策に対する建議書を中山市長に提出しました。長らく日本経済の低迷が、農産物価格の下落傾向に拍車をかけ、獣害の爆発的な増大及び急激な気候の変動など、農業の危機的な状況の中で、宇野会長から京丹後市農業の課題を説明し、市の予算及び農業施策に反映されるよう要望しました。

平成23年度京丹後市 農業施策に関する建議書

1 野生鳥獣被害対策の強化について

野生鳥獣の爆発的な個体数増加による農業、住民生活への打撃はすでに被害ではなく、災害として認識すべきものと考えます。被害地域の住民が、正常な営農、市民生活が営めないという状況はまさに異常であり、特に人家近辺に出没し人命に被害を及ぼす危険がある場合には、積極的な駆除が必要である。最近人命に関わる獣害が与謝野町でも報告されており、緊急の判断が求められる。

なお、現状としては取り得る施策を最大限活用し、鳥獣被害軽減対策が求められる。

京丹後市においても、状況の重大性を認識していただき、是非強力な対策をお願いしたい。

- (1)防護柵等設置への支援強化
- (2)個体数適正管理のための捕獲体制の整備
- (3)隣接自治体と連携した広域的な被害防除の取り組み

2 優良農地の確保と有効利用対策について

- (1)耕作放棄地発生防止のため、総合的な対策を講じられたい。
- (2)「中山間地域等直接支払制度」を活用するとともに、「農地・水・環境保全向上対策事業」に積極的に取り組み、地域ぐるみで参加できるよう行政からの指導・情報提供をお願いしたい。
- (3)農用地利用集積を進めるにあたっては、モデル地区を設置するなど具体的な事業推進を図られたい。

3 担い手対策について

- (1)農業経営者会議が設立されたが、農業者組織への更なる支援をお願いしたい。
- (2)新規就農者・新卒者の就農支援体制の強化を図られたい。
- (3)農地の荒廃化が進む中で、集落営農組織への支援を図られたい。
- (4)営農支援事業の情報提供の充実化を図られたい。

4 営農支援について

水田農業対策について

農業経営安定対策については、新しい制度となる個別所得補償対策事業が、混乱なく実施されることを望み、次の項目についても積極的な対応をお願いしたい。

- (1)「京丹後市地域水田農業推進協議会」がリーダーシップをとって、生産調整に対応していただきたい。
- (2)水田農業対策について、不公平感が生じない適正運用に努められたい。
- (3)売れる米作り対策について、良食味米生産拡大に積極的な支援をお願いしたい。



市長へ建議書を提出しました
(左から中山市長・宇野会長・吉岡会長職務代理人・藤本農政部会長)

国営開発農地対策について

- (1)京丹後製茶工場の完成を受け、更なる茶栽培の振興を図られたい。

- (2)葉タバコの代替となる作物の導入を、早急に推進されたい。

- (3)農業生産法人と既存地元農家との土地利用について、より緊密な連携と調整を図られたい。

京丹後農産物のブランド品生産のあり方と流通対策について

- (1)京丹後市において、JAとともに農業関係者、流通関係者のリーダーシップを取り、京丹後産農産物の流通強化の方策を取っていただきたい。

- (2)丹後米については「特A」という名誉を取得しているが、さらなる丹後米の地位向上のためには、丹後地域一体となった生産販売体制を構築する必要がある。京丹後市にはそのような体制作りに積極的な支援をお願いしたい。

5 循環型農業の取り組みについて

- (1)バイオマス発電施設の利用について、多くの市民の意見を取り入れ有効利用を図られたい。

- (2)畜産農家で多量の堆肥が生産されているが、丹後の農地に還元する方法を確立されたい。

6 地産地消の推進について

- (1)「京丹後市農業経営者会議」の努力により、地場産品を利用した学校給食が実現した。食育の活動を通じて地元農産物の理解を広める活動に協力をお願いしたい。

- (2)地場産品を地元で販売する取り組みへの積極的な支援をお願いしたい。

- (3)「食育基本法」を積極的に活用し、地元の農産物を食する伝統的な日本型食生活の良さを次世代に伝える活動を推進していただきたい。

7 農業委員会組織の体制強化について

改正農地法が施行され、農地の利用状況調査及び指導等の業務を農業委員会が受け持つこととなり、遊休農地対策の専門員が設置されましたが、現体制では農地法に規定されている業務を行なうには体制的に不十分であり、各地区での協力体制が必要であると考えます。農業委員会事務局の体制強化とともに、集落での耕作放棄地対策に対する協力体制の整備をお願いしたい。

伝統のお酒、今年も間もなく仕上がります(左から増田さん、照子さん、宣子さん)



11代目 永雄照子さん(67)
12代目 木本宣子さん(41)



～丹後町中浜～



美人母娘が受け継ぐ

おやこ

伝統の酒造蔵

大寒の候、日本海より寒風が吹きつけ雪が舞う中浜港、その街並みにひっそりとたたずむ「旭桜」の永雄酒造があります。1744年の創業より260年余りも続いている歴史と伝統があり、酒造蔵玄関に立つと古くから伝わる独特の重厚さを感じます。

この時期仕込で忙しい照子さん、杜氏頭(とうじがしら)の増田さんにお話を伺いました。

「初代より脈々と受け継がれているお酒は、三つのこだわりで造られています。一つ目は良い水、酒造蔵の裏手に何百年も枯れることなく湧き出ている宇川の源流からの良質な水です。二つ目は、丹後の選りすぐりの良質米、五百万石を使うことです。三つ目は、何より「技」です。これは、260年の歴史の重みと受け継がれた秘伝の技法です。この3つがあいまって伝統の美味しいお酒が出来ます。」と照子さん。



歴史と伝統を感じます

最後に、「この小さな街の酒造蔵が今後も何代も何代も受け継がれ皆様に愛され続けることが一番の望みです。」と元氣あふれる女将さんが印象に残りました。

お話の後は、杜氏の増田さんに酒造蔵を案内して頂きました。見学中に仕込み作業に忙しく働いておられる宣子さんにお

鱒留区足占会のしめ縄作り

しめ縄



峰山町鱒留区足占(あしうら)会は、地元藤社(ふじこそ)神社にて、神社内の7つの神様、鳥居あわせて8本のしめ縄を、奉納を兼ねて飾り付けました。

足占会のしめ縄作りは、地元消防団の退団者が主体となつて構成されており、地域の子供たちとの交流を兼ねて3年前から始めました。代表の岡井靖次さん(58)は、「しめ縄は、藁の色が重要で、7月末まだ穂が出ていない稲を刈とり、約4ヶ月間陰干ししたものを使用します。数ヶ月をかけて1つのものを作るというのも大切なことで、これからも伝統あるしめ縄を子供たちに継承していきたいです。しめ縄を通して地域に貢献できればうれしいです。」と話されました。



京丹後紀行

石工 長谷川松助 — 峰山町鱒留 —



郷土史家(故)田中尚之氏(峰山町)の
労作「石工松助を語る」によれば、江戸
後期の名工と呼ばれていた松助(初代)
は中郡鱒留村に生を受けたが、天明六
年(一七八六年)妹母、父が相次いで亡
くなるという不幸が続き、八歳にして
天涯孤独の身となり、翌七年京山城国
白川村の石屋に丁稚として年季奉公す
ることとなった。やがて白川での名工

としての職人修行も終え、大坂長堀の石浜で、仲間二人と一
緒に石屋を開業。ここでの修行体得した技術を持って三十七
歳のとき帰村。郷里鱒留村にて石屋を開業するのである。

石屋の仕事というのは、一人で出来る仕事もあるが、数人
の石工の共同作業でないと出来ない重労働であり、松助の場
合も弟子であり、生涯の仲間でもあった石工藤助(東助とも)
らの協力があつた。

松助の作と呼ばれるものは、多くが与謝・中郡にあり、郷里
藤社神社の狛犬、峰山金刀比羅神社、撰社栗島神社の狛犬。観
光案内書等にたびたび登場する同じく撰社の養蚕の神社本
島神社の狛犬。その他にも神社の鳥居、石灯笼、宝篋印塔
等々にもあるのだが、特筆すべきは文政丹後一揆の指導者新
兵衛の為に建てられたという常吉平地峠の「平地地蔵」。極寒
の小字安田のヒロ谷に小屋掛けし、五箇村石工常右衛門、同
じく小西村新八、鱒留村東助・弥助と
共に、棟梁としてかじかむ手にノミを
持ち、一心不乱に刻んだ丈六地蔵(高
さ約5m)。多くの人々の信仰と職人
の心意気の見事なまでの結晶なので
ある。

又、もつとも松助らしい作は、世に
松助型と呼ばれる「子安地蔵」で、右手
に錫杖を持ち、左手には丸々の肥った



峰山町泉「金刀比羅神社」の狛犬



大宮町上常吉「平智山地蔵院」

幼児を抱き、その男児の何とも可愛いシンボルま
で刻みだされていて、お参りし合掌をする人をして、
思わず微笑ませるのである。文 鴨田忠司

お米推進レシピ

米粉のお好み焼き



柴田 委員

練りからしをつけて
食べても美味しいです！

材 料 (6人〜8人前)

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 米粉……500g | ★細ねぎ……適量(細かく切る) |
| 豚(バラ)肉…適量 | ★卵……6ヶ |
| ★キャベツ…60g(8mmの正方形に切ると仕上がりがきれい) | ★桜エビ……適量 |
| ★イカ(生)……適量(細かく切る) | ★山芋……少々 |
| ★紅生姜……大さじ2(細かく切る) | たれ……お好み焼きソース…適量 |
| ★天かす……適量 | マヨネーズ…適量 |

作り方

- ①米粉500gをじゃこと昆布でとった出し汁750ccに混ぜ、はちみつくらいの硬さに練り混ぜる。
- ②ホットプレートに180℃の温度に設定し、ボールに★印の材料とともに①の生地を入れて混ぜる。
- ③大きさは自分好みで、最後に豚肉をのせて焼き、焦げ目が出たら裏返す。
- ④豚肉のある側が焼けたら再び裏返し、豚肉のほうを表面にする。
- ⑤たれをぬって青海苔、鰹節をかけたらできあがり。

ごはんせんべい

材 料 ごはん……50g 紅生姜・わかめ・桜エビ…適量

作り方

- ①ごはん50gをクッキングペーパーに薄く押しつぶして、その上に材料を置く。
- ②レンジなら5分〜7分、ホットプレートなら10分おく。
- ③焦げ目がついたら、醤油・みりん・又は塩や砂糖で味を整えてできあがり。



広報編集委員記事

京丹後市農業委員会だよりは、私たちが担当しています。平成22年12月、京都府農業委員会広報コンクールにおいて5年連続となる金賞(知事賞)を受賞しました。これからも、身近でホットな話題を提供してまいります。

左から

金羽委員、谷口委員、吉岡委員、鴨田委員(編集長)、川瀬委員、梅田委員、藤本委員

平成23年度、密着取材させていただく農家を募集します。

農業委員会だよりにて、1年間密着取材をさせていただく農家を募集いたします。多数の応募がある場合は、農業委員会広報編集委員会にて決定させていただきます。応募期間は、平成23年2月25日〜平成23年3月15日まで。応募方法は、京丹後市農業委員会事務局(電話69-0040)までお問い合わせください。